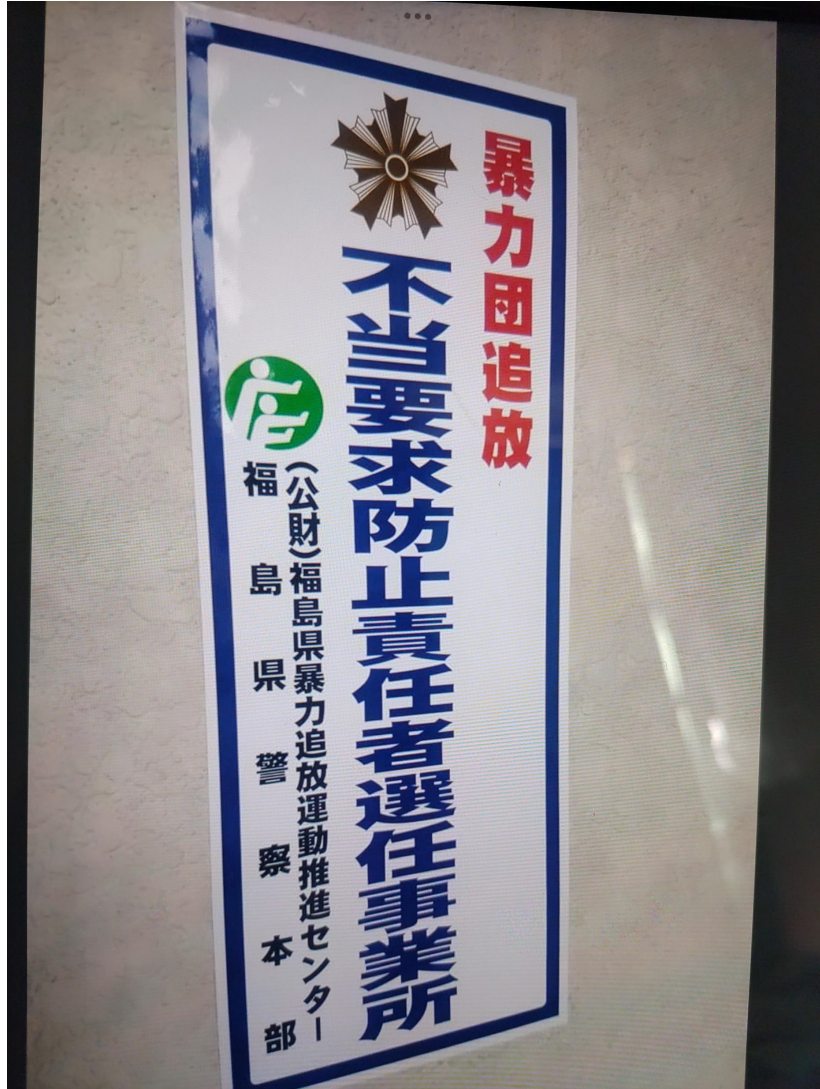


感染症予防講座

NPO法人日本予防医学総合研究所 大河内晃



放射能勉強会で学んだこと

①日本予防医学総合研究所では、東日本大震災と原発事故以降の災害対策の一貫として SNSを活用し、正確な情報により放射能の勉強会を行っていること。

②放射線による健康影響には、確定的影響と確率的影響があり、将来起こりうる健康被害から自分の健康を守るためには、日本の伝統食を見直すことで腸内フローラを善玉菌優勢に保ち、免疫力とりわけNK活性を高めて行くことが大切になること。

③子供についても予防医学・早期発見・早期治療の普及で健康上の問題はあまり深刻に考えることは必要ないが、成人と比較して獲得免疫が未熟であるために、多様な菌と接触することで獲得免疫を得る機会を増やすと共に、バランスの良い食生活を通じて免疫力を高めて行くことが大切となること。

コロナウイルス 約 $0.1\mu\text{m}$ 1/10000mm

ウイルスとは生物と非生物の中間的存在

細菌 単細胞生物 自己増殖できる

ウイルスは他の生物の細胞に寄生してコピーを増やす必要がある

他の細胞に侵入し増殖し始めた段階を「感染」と呼びます。

感染経路 接触 (経口感染) 飛沫感染 空気感染

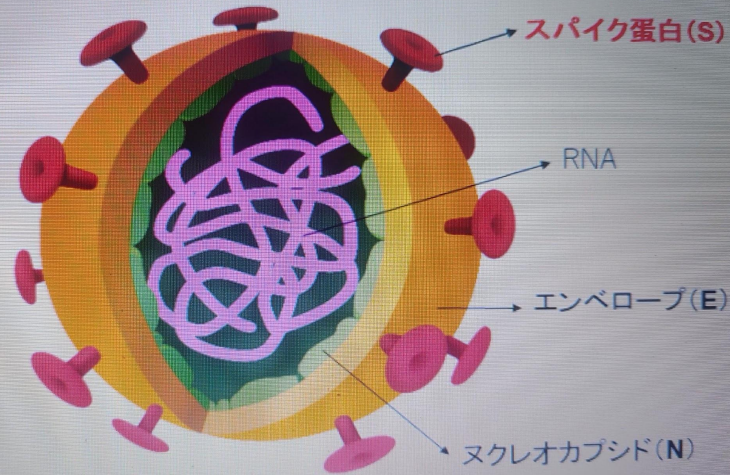
光学顕微鏡



電子顕微鏡



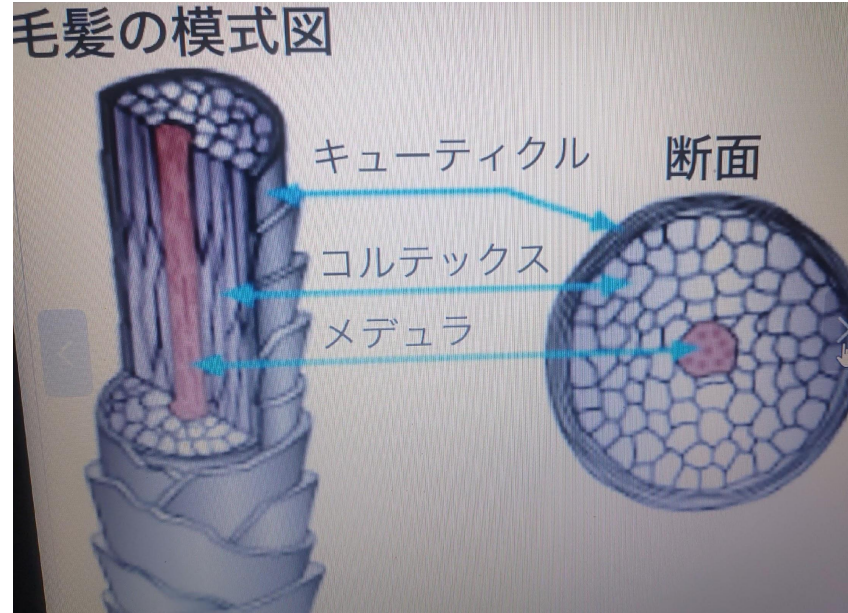
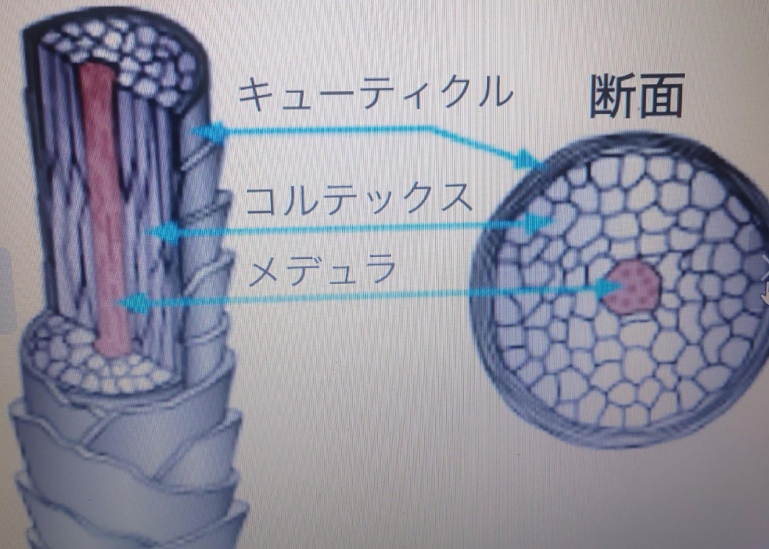
問題となる変異は表面(スパイク)蛋白

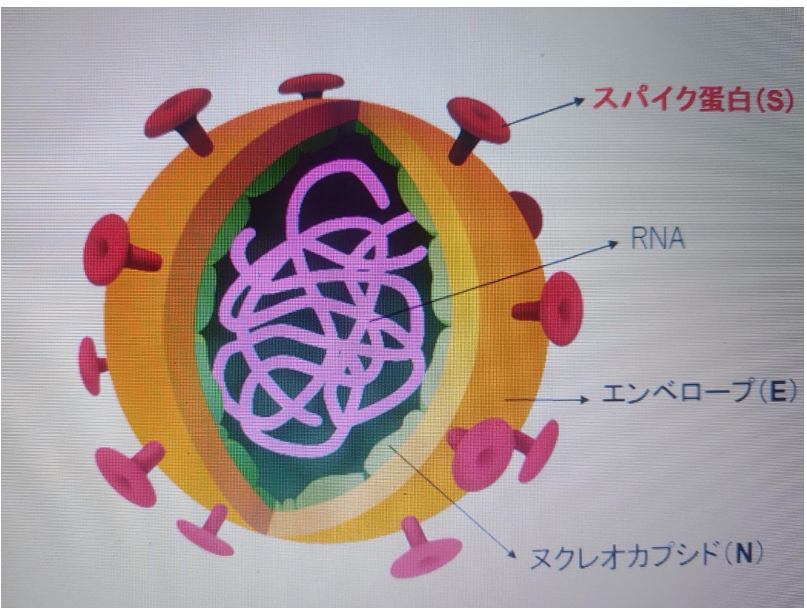


大腸菌 約 $2\mu\text{m}$

髪の毛断面 約 $100\mu\text{m}$

毛髪の模式図





ウイルス 核酸とタンパク質

コロナウイルス RNAウイルス(一本鎖)

脂質でできたエンベロープを持ちます。

インフルエンザウイルス エイズウイルス

RNAウイルス 変異しやすい

コロナウイルス

①風邪の病原体としてヒトに広く蔓延する

4種類

②動物から感染し重症肺炎の原因となる

2種類

合計6種類

③新型コロナウイルス

SARS-CoV-2

※7種類目

SARS-COV-2により引き起こされるとされる病気

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

表1. ヒトに感染するコロナウイルスの特徴				
ウイルス名(呼称)	HCoV-229E, HCoV-OC43, HCoV-NL63, HCoV-HKU1 (風邪のコロナ)	SARS-CoV (サーズ)	MERS-CoV (マーズ)	SARS-CoV-2 (新型コロナウイルス)
感染症名	風邪	SARS 重症急性呼吸器症候群	MERS 中東呼吸器症候群	COVID-19 (新型コロナウイルス感染症)
発生年	毎年	2002年～2003年(終息)	2012年～現在	2019年～現在
宿主動物	ヒト	キクガシラコウモリ (中国南部に棲息)	ヒトコブラクダ (中東、アフリカに棲息)	不明
発生地域	世界中で人類に蔓延している	中国広東省	アラビア半島とその周辺地域。全症例の80%以上はサウジアラビアからの報告。中東以外の国では輸入例が報告されている(韓国、イギリスなど)。	中国武漢市。全世界に感染拡大。
死亡者数/感染者数	不明/77億	774/8,098 終息	935/2,578	455万/2億2千万(2021年9月)
感染者の年齢	多くは6歳以下。全年齢に感染する	中央値40歳(範囲0-100歳)* (子供には殆んど感染しない)	中央値52歳(範囲1-109歳)* (子供には殆んど感染しない)	中央値36歳(範囲0-133歳) (子供に感染するが重症化しない)
主な症状	鼻炎、咳、上気道炎、下痢	咳、高熱、肺炎、下痢	咳、高熱、肺炎、腎炎、下痢	咳、高熱、肺炎
重症者の特徴	通常は重症化しない	糖尿病等の慢性疾患、高齢者	糖尿病等の慢性疾患、高齢者	糖尿病等の慢性疾患、高齢者
感染経路	咳、飛沫、接触	咳、飛沫、接触、便	咳、飛沫、接触	咳、飛沫、接触
ヒト-ヒト感染	1人→多数	1人から1人以下。スーパーブレッダーにより、多数へ感染	1人から1人以下。スーパーブレッダーにより多数へ感染	1人→多数
潜伏期間	数日(不明)	1-10日	2-14日	1-14日
取扱実験施設	BSL2	BSL3	BSL3	BSL3
感染症法(拡大防止策)	指定なし	二類感染症	二類感染症	新型インフルエンザ等感染症
感染症法(病原体管理)	指定なし	二種病原体	三種病原体	四種病原体

国立感染症研究所「新型コロナウイルスの存在を証明する科学的根拠・論文などが保有されていない」
2023年11月10日時点

毒性が有るウイルスが存在していると仮定しリスクへ対応している

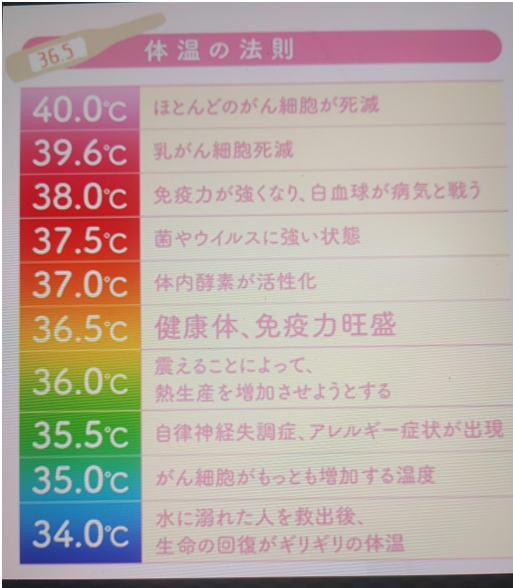
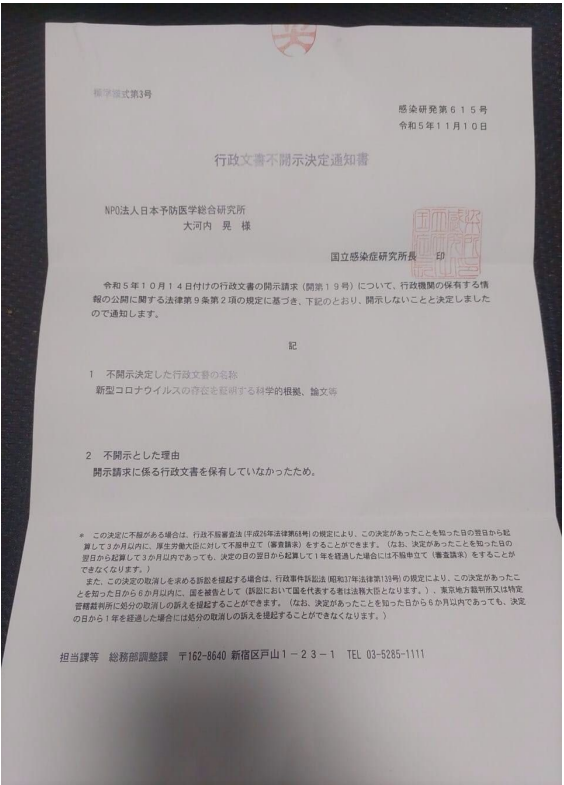
COVID-19の症状

発熱・鼻水・喉の痛み・咳・呼吸器症状・嗅覚異常・味覚異常

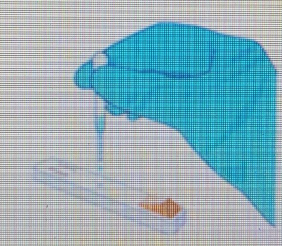
感染者の一部 肺炎の悪化により酸素投与 集中治療室での人工呼吸管理が必要となる。 新型コロナウイルスによる肺炎は間質性肺炎(岐阜大学論文参考)と言われます。

高齢者 基礎疾患のある方 一部の妊娠後期にある方で重症リスク増加の傾向

日常生活では体温による健康管理が大切となる



主な検査の特徴

今感染しているかを調べる検査		過去に感染したかを調べる検査
PCR検査	抗原検査	抗体検査
		
・唾液 ・鼻の粘膜のぬくい液	鼻の粘膜のぬくい液	血液

ウイルス検査方法

①PCR検査(ポリメラーゼ連鎖反応) 検査したいウイルスの遺伝子を専用の薬液を用いて増幅させ検出する

②抗原検査 検査したいウイルスの抗体を用いて、ウイルスが持つ特有のタンパク質(抗原)を検出する

③抗体検査 過去にそのウイルスに感染していたかを血液中のタンパク質(抗体)の有無により調べる方法

キャリー・マリス博士とPCR検査

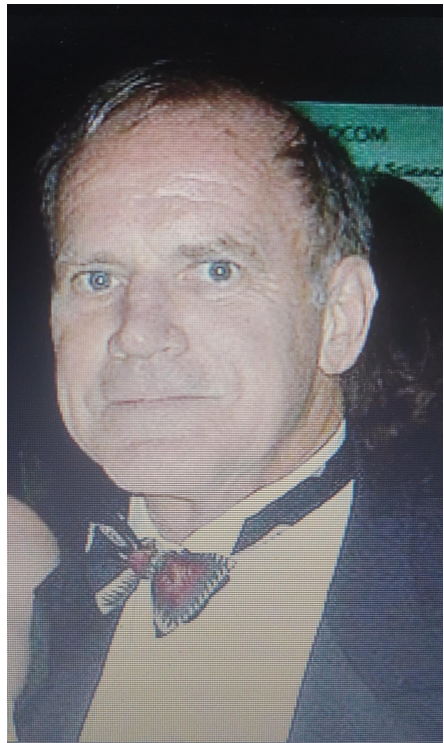
PCR検査 アメリカ人 生科学者 キャリー・マリス博士 (1993年ノーベル化学賞)により考案
分子生物学に重要な検査方法

感度問題・特異度問題 2点により感染症の検査や診断に PCR検査は不適切であると指摘

鼻の粘膜にウイルスなどの粒子が数個でも付着しており、これを検出すればPCR検査陽性となる

PCR検査陽性者は厳密には感染者ではありません

外出先からの帰宅時には鼻うがいを推奨します



(遺伝子検査)

PCR検査の正体

PCR発明者キャリー・マリス博士やPCR検査キット会社も感染症の検査や診断には不適切といわれています。

陽性反応の出るウイルス類

- 新型コロナウイルス?%
- ウイルスの死骸(無症状者)
- コロナウイルス (年間400万人罹患)
- インフルエンザウイルス (年間1000万人)
- ライノウイルス 通常の風邪
- アデノウイルス (年間1000万人罹患)
- エンテロウイルス
 - Respiratory Syncytial Virus (typeB)
 - Respiratory Adenovirus (type3, type7)
 - Mycoplasma Pneumoniae
 - Chlamydia Pneumoniae
 - などなど

感度問題 CT値高すぎる

特異度問題

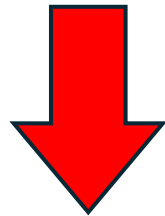
感染症がはやる季節														ピーク時
感染症名		春			夏			秋			冬			春
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
予防措置あり	麻しん(はしか)	3月～8月												
	風しん	3月～7月上旬												
	みずぼうそう	12月～7月												
	感染症胃腸炎(ロタ)	3月～5月												
	おたふくかぜ	3月～8月												
	インフルエンザ													
予防措置なし	感染性胃腸炎(ノロ)									11月～12月				
	ヘルパンギーナ			6月～7月										
	手足口病			6月～8月										
	咽頭結膜熱(プール熱)			7月～8月										
	溶連菌感染症										12月～7月上旬			
	突発性発しん	通年												

一般に、ウイルスの種類にもよりますが、冬場の 15℃以下の低い気温と40%以下の低い湿度はウイルスにとって至適環境とされ空気中に浮遊しやすいと言われます。

大河内晃は新型コロナウイルスワクチンの接種を受けておりません

北里大学在学中 ワクチン基礎研究に携わり「ワクチン =絶対悪」とは思っておりません。

自分の命・健康は自分自身で守ることが前提



エビデンスや最新の知見に基づく正しい情報により自らの健康を守る道を選択して行くことが大切

①ワクチンによる方法

ワクチン実用化までの工程

※イメージ

	通 常	新型コロナ
ワクチン 設計、 動物実験	数年以上	数カ月 (SARSなど の研究成果 を活用)
治験	1相 2相 3相 5~7年	1相 2相 3相 数カ月
審査	1~2年	1~2カ月
実用化まで の期間	10年以上	約11カ月~

新型コロナウイルスワクチン 通常のワクチン 実用化まで 10年以上を
必要とするに対して短期間

アナフィラキシー ADE(抗体依存性感染増強・大阪大学論文参
考)のリスク

ワクチン後遺症・死亡事例

コロナワクチン3年間で

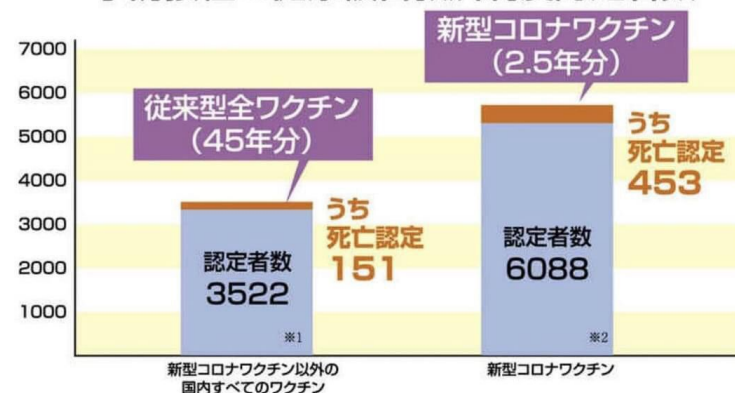
過去45年分の被害を超える

わかりやすい答え合わせ

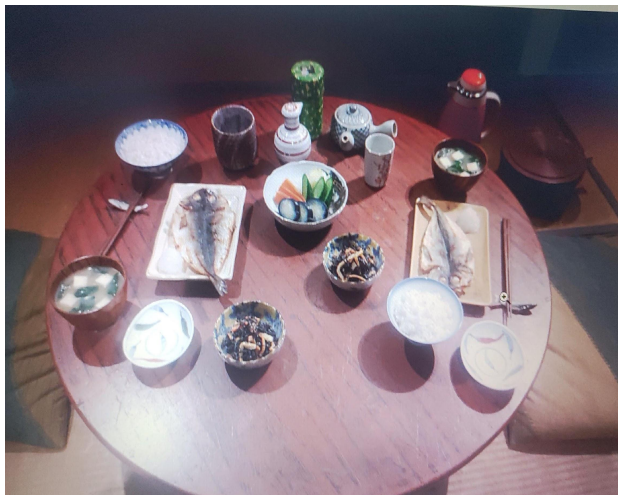
新型コロナワクチン被害者遺族会

厚生労働省・研究機関 安全性の検証を含め迅速かつ誠実な対応
をされるように要望します。

予防接種の健康被害救済制度認定者数



②食生活改善による方法



NK活性増加要因

食生活改善
適切な睡眠
運動
森林浴
音楽
質の良い笑い
など

食生活の改善などを通じて免疫力 NK活性を高め病気に負けない健康づくり

EGCg(エピガロカテキンガレート)
インドERA医科大学論文参考



緑茶に含まれる
カテキン



ビタミンC

国際オーソモレキュラー医学会 (本部・カナダ)論文参考

水溶性ビタミンであり排出されやすいためサプリメントと併せて摂取する

ビタミンD

国際オーソモレキュラー医学会論文参考

脂溶性ビタミンであり食事による摂取の他、太陽の紫外線を浴びることでも体内で合成される

ビタミンC豊富な食材

(可食部100gあたり) 文部科学省：栄養成分表第5訂より

赤ピーマン	170mg
緑ピーマン	76mg
茹でブロッコリー	54mg
ほうれん草(冬)	60mg
甘柿	70mg
キウイ	69mg
いちご	62mg
オレンジ	60mg
かぶ葉	47mg
小松菜	39mg
じゃがいも	35mg



ビタミンDを多く含む食材		含有量 (μg)
	鮭 90g	28.8
	さんま 1尾 150g	14.4
	ぶり 90g	7.2
	しらす 大さじ1	3.7
	さば 1切 55g	2.8
	きくらげ 3つ	2.6
	鶏卵 1つ	0.9
	舞茸 20g	0.9
	乾しいたけ 2つ 7g	0.9
	牛乳 200ml	0.6
【その他の食材】		
さば水煮缶、かじき、さわら、あじ、ぶなしめじなど。		

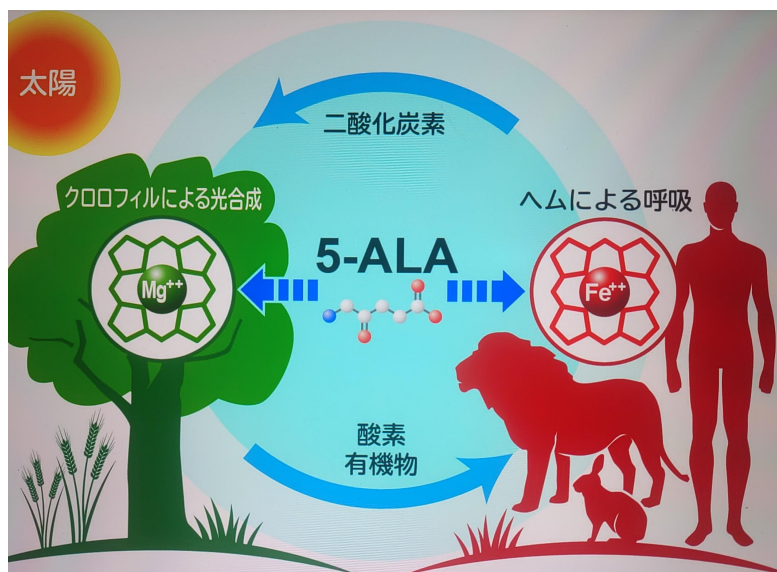


積極的に屋外で陽の光を浴びる生活を心がける

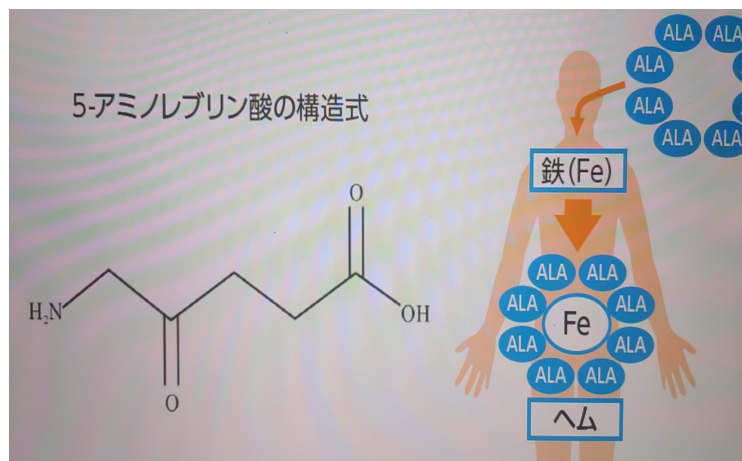
5-ALA (5-アミノレブリン酸)

長崎大学論文参考

動物や植物の細胞内で生成される天然の遊離アミノ酸



これらの食品をバランス良く摂取し、食生活を通じた病気の予防と早期発見・早期治療により科学的根拠を持って深刻な時期を乗り越えることが大切



感染症法に基づく分類 NHK

- 1類 エボラ出血熱、ペスト など
- 2類 結核、SARS など
- 3類 コレラ、腸チフス など
- 4類 サル痘、黄熱、狂犬病 など
- 5類 季節性インフルエンザ、梅毒 など

2023年5月新型コロナウイルス感染症法上の取り扱い 2類から5類へ

入院措置を原則とした限られた医療機関による特別な対応



メリット

幅広い医療機関での自律的な通常の対応

ウイズコロナの時代 (教訓として)

インフルエンザウイルスなど他のウイルスと混在して検出する PCR検査を一刻早く撤廃することが重要

科学においては、エビデンスと結果の再現性が重要であり、これを根拠として対策することが必須となる。

専門用語を適切に使用し、正確な災害情報を発信する

科学的根拠に基づく正確な診断ができるように国に対し迅速かつ誠実な対応を求めます。

(遺伝子検査)

PCR検査の正体

PCR発明者ギャリー・マリス博士やPCR検査キット会社も感染症の検査や診断には不適切といわれています。

陽性反応の出るウイルス類

- 新型コロナウイルス ?%
- ウイルスの死骸 (無症状者)
- コロナウイルス (年間400万人罹患)
- インフルエンザウイルス (年間1000万人)
- ライノウイルス 通常の風邪
- アデノウイルス (年間1000万人罹患)
- エンテロウイルス
 - Respiratory Syncytial Virus (typeB)
 - Respiratory Adenovirus (type3, type7)
 - Mycoplasma Pneumoniae
 - Chlamydia Pneumoniae などなど

感度問題 CT値高すぎる

特異度問題

地域コミュニティサークル芝桜の会について

QOLの向上と持続可能な社会作りに貢献する

チェルノブイリ原発事故後、被曝量とは関係なく PTSD 鬱 心身症などの心の病 アルコール依存 自死 小児甲状腺がんが増加し、旧ソ連や欧州では低線量被曝を恐れ堕胎も急増したとされます。福島県内においても若年層で心の病を持つケースも増加している状況にありその対策が必要です。

NPO法人日本予防医学総合研究所では、これまでの知見により放射能に関する教育事業を行うと共に①食育活動の推進 ②海の活動を通じた交流事業 ③伝統文化の継承を 3本柱に地域コミュニティサークル芝桜の会を運営し、震災の教訓を後世に伝承して参ります。芝桜の会の活動に、みなさまの御理解と御支援をいただきます様、宜しくお願い致します。

以上